ポットホール

天候問わず簡易補修

中日本ハイウェイ・メンテナンス北陸、東亜道路工業

散水後に踏み固めるだけ

中日本ハイウェイ・メンテナンス北陸（金沢市、増島隆夫社長）と東亜道路工業は、天候に左右されず道路にできたポットホールの簡易補修が可能な応急補修材を共同開発した。穴の大きさに応じて13㌢×21㌢×厚さ1㌢の材料を敷並べ、水を掛けて踏み固めるだけで補修が完了する。直径約30㌢の穴を従来方式で補修すると約5分掛かるのに対し約1分で補修できる。

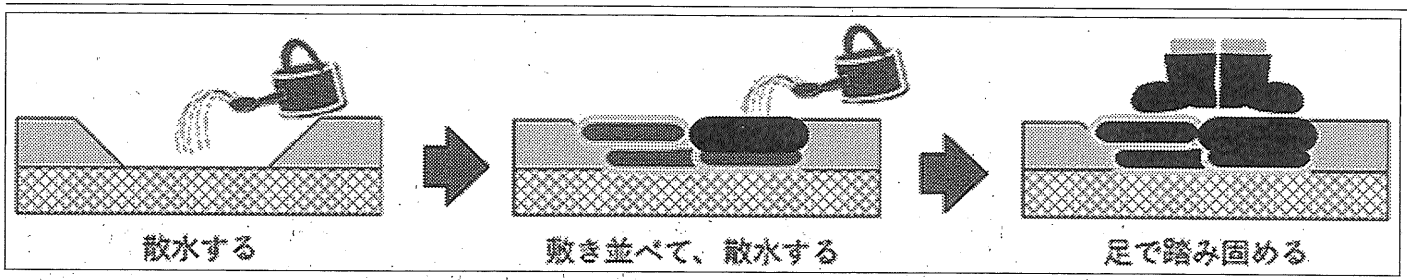
「TOKE（溶け）・パック」と呼ぶ応急補修材は、水に触れると容易に溶解する水溶性フィルムを外装材として、500㌘の常温合材を梱包（こんぽう）して作る。中に詰める常温合材は径5㍉の骨材、砂、アスファルトと、耐久性を高める樹脂で作る東亜道路工業のコールドパーミックスを用いることで、踏み固めるだけで強度が発現する。雨天時は自然に外装材が溶けるので、散水工程も不要になるという。

中日本ハイウェイ・メンテナンス北陸は、中日本高速道路会社のグループ会社。高速道路の路面に発生したポットホールの補修材として利用することを目的としてTOKE・パックの開発に取り組んだ。補修時間の短縮によってドライバーにできるだけ迷惑が掛からないようにするほか、作業の安全性向上に役立てていく。一般道の補修材として利用することも想定している。

ポットホールは、車両が繰り返し走行することでアスファルト舗装の表面の一部に発生する。高速道路で走行の安全を確保する観点から速やかに補修を行う必要がある。

従来の応急補修では、不織布で包んだ小袋状の補修材か、20～25㌔㌘単位で袋詰めされた常温合材が主に用いられる。

不織布を使った材料の場合、接着剤としてアスファルト乳剤を事前に散布する必要があり、乳剤が流れてしまう雨天時には行えなかった。袋詰め常温合材を使う場合には、敷きならしや機械による締め固めに時間を要するという課題があった。



晴天時の施工手順（雨天時は散水も不要となる）

2019年1月24日付　日刊建設工業新聞